

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成29年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

| | | | |
|---|------------------------------|---------------|-------|
| 機 関 名 | 信州大学 | 整理番号 | U02 |
| プログラム名称 | ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成 | | |
| プログラム責任者 | 下坂 誠 | プログラムコーディネーター | 高寺 政行 |
| <p>1. 進捗状況概要</p> <p>今回の訪問では、学生との面談に多くの時間を取り、学生からの率直な意見を聞くことができた。</p> <p>全体として計画を着実に実施し順調にプログラムが進んでおり、学生の成長も実感できた。以下、個別事項について記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムが求めているインターンシップや英語による討議形式の講義、繊維に関連する幅広い講義の受講が、「通常の学位取得の研究に加えて求められているために、学生にとって負担感が大きい」という懸念がこれまでも指摘されていたが、学生達は上手に時間の管理をして、むしろそうしたヘビーなプログラムを乗り切ることで、大きな達成感を得ていることが感じられた。 ・これまでの留意事項に従って、講義科目等の一部見直しなどにより、学生の負担は当初計画よりも少なくなっている。 ・留学生の多くが日本国内での就職を希望しており、その際必要となる留学生の日本語力も向上しており、メンターによる留学生支援等も成果をあげている。 ・経費の中の一定額が備品購入に充てられているが、学生の研究に必須の機器として活用されており、問題はないと考える。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援期間終了後の対応については、継続すべき内容についての精査が必要である。また、企業等からの寄付金等を検討しているとのことであったが、計画段階であり、今後具体的なアクションプログラムを作成する必要がある。 ・本プログラム生が修了を迎えるにあたって、通常課程の学生との評価の観点の違いの明確化など、学位の質の保証のためにも準備をはじめめる必要がある。 | | | |